

20. I. 1976

寄せ蛾記

埼玉蛾類談話会発行

YOSEGAKI : THE SAITAMA HETEROCHERISTS' GROUP

奥秩父の蝶に関する資料

その2 *碓井徹

前号に引き続き、1965年に調査した奥秩父の蝶について報告する。

[IV] 1975年7月10日～13日，三峰山・霧藻ヶ峰

今までに発表されてきた三峰山や雲取山附近の採集記録を注意してみると6月下旬から7月上旬にかけてのものが意外に少ないことに気づく。その理由として第一に考えられるのは梅雨時の天候不良であるが、普段活発な活動をしている県内の高校生物部員が期末テストのために思うように動けないことも大きな理由と思われる。

6月下旬～7月上旬と言えばゼフィルスの発生期であり、三峰周辺でまとまった数のゼフィルスの記録がされていないのは、明らかに調査不足によるものである。そして、もしかしたらウラミスジでも採れるかもしれないなどと考えながら4日分の食料をザックにつめて、4本つなぎのネットを持って雨の降りしきる中を三峰山へと向った。

文中の〔目〕は確実な目撃例で、他は採集した個体である。
 (1) 7月10日，三峰山々頂（雨天）1101m

(①は新鮮)
 (②は普通)
 (◎は汚損)
 (個体を示す)

- ・クロヒカゲ 1♀ ◎
- (2) 7月11日，三峰山々頂（曇天，7:35～9:00, 10:10～13:30, 15:00～17:30の3回)
 - ・コチャバネセセリ 2◎
 - ・カラスアゲハ 1♂①, 1♀①〔目〕
 - ・キアゲハ 3♂〔目〕
 - ・スジグロシロチョウ 5♂②, 9♂②
 - ・ヒメキマダラセセリ 1♂①, 3♂〔目〕
 - ・ミヤマカラスアゲハ 1♂②, 1♀①
 - ・モンキチョウ 1♀①〔目〕
 - ・ミドリヒヨウモン 1♂①

* 碓井徹：〒921 金沢市 緑が丘14～10 松田方

- ・ ミスジショウ 2♀①
- ・ ルリタテハ 1①
- ・ アカタテハ 1〔目〕
- ・ ウラクロシジミ 1♂①, 1♀①, 3♂〔目〕
- ・ オオミドリシジミ 4♀①
- ・ ヒメキマダラヒカゲ 1〔目〕
- ・ コミズジ 1②
- ・ クジャクショウ 2①②
- ・ アサギマダラ 1〔目〕
- ・ メスマカミドリシジミ 7♂①~②
- ・ クロヒカゲ 1♂①, 2♀①
- ・ サトキマダラヒカゲ 1②

(3) 7月12日 (雨 三峰山8:30 → 11:45 霧ヶ峰12:20 → 12:55
お清平13:50 → 三峰山, 終日の雨で成果あがらず)
 ・ クジャクショウ 1〔目〕 霧ヶ峰 ・ ヒカゲショウ 1① お清平
 ・ ヤマキマダラヒカゲ 3② 地蔵峠

翌日は悪天候のため朝のうちに下山。4日間とも好天に恵まれず良い成果は得られなかった。ゼフィルスではウラクロシジミが発生期のピークを過ぎていたように思われたのはほぼ発生の初期だったと言えよう。また、採集できなかつたが、地蔵峠と霧ヶ峰で橙色のゼフを1頭、緑色のゼフを数頭目撃した。
(1529m)

[V] 1995年7月17日 → 22日, 三峰山 → 雲取山 → 将監峠 → 雁坂峠 → 川又

当初は雁坂峠から甲武信を経て十文字峠から中津川へ下山の予定であったが、途中で低気圧が接近し数日間の悪天が予想されたので川又へ下山。

(1) 7月17日, 三峰山頂付近(曇, 一時小雨, 9:40 ~ 14:15)

- ・ キアゲハ 1♂①
- ・ メスマカミドリシジミ 4♀①~②
- ・ ウラクロシジミ 1♂〔目〕
- ・ ミドリヒョウモン 1♂①, 1♀①〔目〕
- ・ オムラサキ 1♀①〔目〕
- ・ ヒカゲショウ 1♂①
- ・ ヤマキマダラヒカゲ 1②, 2②〔目〕
- ・ コチャバネセセリ 1①
- ・ オオミドリシジミ 3♀②③
- ・ ミズイロオナガシジミ 3①
- ・ テングショウ 1①
- ・ ホシミスジ 1①
- ・ クロヒカゲ 1♀①
- ・ ヒメキマダラヒカゲ 1♂①
- ・ ダイヨウセセリ 2②

以上の様に天気があまり良くないので目撃した個体数も少なかつた。ウラクロシジミは早らしきものも数個体目撃、ミズイロオナガシジミは発生初期と思われる。ホシミスジは1967年7月27日に筆者と同行した持田君が採集したのと同一の場所で採集できた。

14:15 から同行した市川和夫氏と別れを告げ、雲取山登山道へ入る。標高1,200mへ1,300m付近で採集したものは次のとおり:

- ・ メスマカミドリシジミ 2♂①②
- ・ クロヒカゲ 1♂①

- ・ヒメキマダラヒカゲ 1♂①

標高1,300m～1,400m付近のものは次のとおり

- ・スジグロシロチョウ 2♂②
- ・メスアカミドリシジミ 3♀①②
- ・ママキマダラヒカゲ 3♂②③
- ・キアゲハ 1♂②
- ・ヒメキマダラヒカゲ 2♂①

霧藻ヶ峰着は18:00。三峰からここまでブナやミズナラがかなり見られ、1970年7月23日にはジョウザンミドリシジミ 1♀(②), 1971年7月23日には前白岩でアイノミドリシジミ 1♀(①)を撮影しているので、今回はぜひ採集しようと思ってきたのに、4本竿を振りまわしてやっと採集できたのはすべてメスアカミドリシジミだった。また、はるか高い梢上で大小のゼフが追飛しあっているのを何回か目撃できたが、これらはメスアカ、とミズイロオナガであろうか。

(2) 7月18日、霧藻ヶ峰10:00 → 白岩山16:40 → 雲取山19:00(快晴)

霧藻ヶ峰山頂付近のものは次のとおり。(1523m)

- ・アカシジミ 1②
- ・ミドリヒヨウモン 4♂①
- ・クロヒカゲ 多数[目]
- ・ママキマダラヒカゲ 1♂②
- ・メスアカミドリシジミ 1♂②
- ・ウラギンヒヨウモン 1♂①, 1♀①
- ・ヒメキマダラヒカゲ 2♂①
- ・イチモンジセセリ 1①

お清平で採集したものは、

- ・テングチョウ 1①
- ・シータテハ 1①[目]
- ・ハヤシミドリシジミ 1♂①
- ・ママキマダラヒカゲ 1♂②

前白岩で採集したものは、

- ・カラスアゲハ 1♂②
- ・ウラジマメ 4①～②
- ・スジグロシロチョウ 1♂②
- ・エゾスジグロシロチョウ 2♂②, 1♀②

白岩小屋前では。(1880m)

- ・スジグロシロチョウ 1♂②
- ・エゾスジグロシロチョウ 2♂②, 1♀②

白岩山々頂では。(1921m)

- ・アカタテハ 1②

白岩山へ大ダウにかけては、

- ・ウラジマメ 3②
- ・ママキマダラヒカゲ 2♂①

お清平でハヤシミドリシジミが採集できたのは意外だった。また、前白岩の肩付近でも表面が青紫色、裏面が灰色のゼフを至近距離で見ているが、これもハヤシだったのかもしれない。従来、三峰近辺ではハヤシミドリの記録は皆無で、県内では奥武蔵の堂平山付近に限って記録されていた。本種は

カシワを食樹としているが、お清平付近にはカシワは見られない。しかし、小杉昭光先生(浦和高校)によれば、三峰山から霧藻ヶ峰にかけての稜線にはないが、山腹にはカシワが点在しているとのことなので、山腹のものがお清平へと吹き上げられてきたと考えるべきかもしれない。

(3) 7月19日、雲取山→飛龍山→将監峠(晴れ)

雲取山々頂付近(7:30～10:10)(2018m)

- | | | | |
|------------|-------|-----------|------|
| ・キアゲハ | 2[目] | ・アサギマダラ | 1[目] |
| ・ウラジマリメ | 1[目] | ・コチャバネセセリ | 1◎ |
| ・ヒメキマダラヒカゲ | 多數[目] | | |
- 三条分歧(10:10～10:30)
- | | | | |
|---------|-----|---------|-----|
| ・アサギマダラ | 1♂① | ・モンキチョウ | 1♀① |
|---------|-----|---------|-----|

三ツ山(三条分歧から北天のタルまで)

- | | | | |
|------------|-----|------------|---------|
| ・コチャバネセセリ | 1◎ | ・ヒメキマダラヒカゲ | 2♂① |
| ・ヤマキマダラヒカゲ | 2♂② | ・ベニシジミ | 1♂①(夏型) |
| ・イチモンジセセリ | 1① | | |

龍鳴山

- | | |
|------------|-----|
| ・ヤマキマダラヒカゲ | 1♂② |
|------------|-----|

将監小屋着は19:30。採集はできなかったが、雲取山頂付近と三ツ山および飛龍神社前(16:40)の3箇所で緑色のゼフを各1頭ずつ目撃した。雲取山から笠取山へ伸びる稜線では8月に入つてからがゼフの発生期と考えていたが、どうも7月中旬からのようである。ベニシジミは採集した個体以外は見られなかった。

(4) 7月20日、将監峠→唐松尾山→笠取小屋(快晴)

将監峠(8:00～10:00)(1800m)

- | | | | |
|------------|-----|-------------------|-------|
| ・キアゲハ | 1♀② | ・エゾスジグロシロチョウ | 2♀②◎ |
| ・ヒメシジミ | 1♂② | ・ウラギンヒョウモン | 2♂① |
| ・フタスジチョウ | 1♂③ | ・クジャクチョウ | 1◎ |
| ・エルタテハ | 1① | ・ルリタテハ | 1[目] |
| ・ウラジマリメ | 4①② | ・クロヒカゲ | 1♂① |
| ・ヒメキマダラヒカゲ | 2♂① | ・(サトと思われる)キマダラヒカゲ | 1♀① |
| ・イチモンジセセリ | 2① | ・コチャバネセセリ | 多數[目] |

ヒメシジミは採集した個体しか見られなかった。フタスジチョウは将監小屋の周辺にのみ見られ、発生のピークの時期と思われた。ヒョウモン類ではウラギンヒョウモンしか見られず、ギンボシヒョウモンはウラギン。と発生期がず

れている様に思える。ルリタテハは間近から見たので間違いないし。クロヒカゲモドキがないものかとネットに入れたものはすべてクロヒカゲであった。

唐松尾山

- ・ ヤマキマダラヒカゲ 1♂①
- ・ クロヒカゲ 1♂①

(5) 7月21日，笠取小屋→雁峰→雁坂峠（晴れのち曇，雨）

雁峰(9:00～11:00) (+780m)

- | | |
|---------------------|----------------------|
| ・ コチャバネセセ 多数[目] | ・ ギンイチモンジセセリ 1♂①(春型) |
| ・ キアゲハ 1♀②[目] | ・ エゾスジグロシロチョウ 1♀② |
| ・ モンキチョウ 1♂[目] | ・ フタスジチョウ 1♂① |
| ・ ウラギンヒョウモン 1♂① | ・ アサギマダラ 1[目] |
| ・ サカハチチョウ 1②[目](複型) | ・ ヤマキマダラヒカゲ 1♂① |
| ・ クロヒカゲ 2♂① | ・ ウラジマメ 5① |
| ・ ヒメキマダラヒカゲ 多数[目] | |

笠取小屋では思いがけず風呂にありついで筋肉がふやけてしまい、午前中は雁峰でのんびり過ごした。ギンイチモンジセセリが採集できたのには驚いた。春型の♂で、年1化性ということであろう。フタスジチョウは将監峠と同様かなり多い。

雲取山から雁坂峠を経て甲武信岳へ伸びる稜線は埼玉県と山梨県の県境で、埼玉側（北斜面）は森林に覆われ、反対の山梨側は植林されたり、草原が開けていたりして対照的な景観となっている。しかし、この雁峰を中心にして笠取山から燕山にかけては尾根が広く稜線の両側に草原が発達しており、主脈縦走路を行く者に非常に新鮮な感じを与えている。12:15 雁峰発。

燕山

- ・ ヤマキマダラヒカゲ 2♂①②
- ・ フタスジチョウ 1①

燕山から古礼山の南西斜面にも草原が広がっており、フタスジチョウがここにも産する様だが、天候が悪化してきて1頭きり採集できなかつた。燕山を登りきったあたりからびどい雨模様になり、雁坂峠まで4枚着なし。

(6) 7月22日 雁坂小屋→突出峠→川又→上中尾→大麻生

天気図をとると、2～3日は好天が望めそうもないでの甲武信への予定を変更し、川又から二瀬へ下山することにした。朝からガスがかかってツンドラシル峠まではクロヒカゲを1頭目撲したのみ。

雁道場からやや下った所に伐採して植林したばかりのかなり広い草地があり、そこでしばらく採集した。（標品につけたラベルには「川又」と記入する）

- ・ スジグロシロチョウ（？エゾ）かもしれない、未展翅） 4①②

- ・メスアカミドリシジミ 1♀①
- ・ヤマキマダラヒカゲ 1♀①
- ・サカハチチョウ 1♂, 1♀①

川又(部落)…採集品は未展翅

- ・クジマクチョウ 1①
- ・スジグロシロチョウ(?エゾ) 2①②

川又～朽木…未展翅

- ・スジグロシロチョウ(?エゾ) 1♀②
- ・コミスジ 4[目]

朽木…未展翅

- ・オオミスジ 3♂②, 1♀①
- ・スジグロシロチョウ(?エゾ) 4②
- ・ヤマトシジミ 1♂①
- ・モンシロチョウ 1♂②

ウメの木が多く、オオミスジは10頭以上目撃したが木が高くてネットがとどかない場合が多かった。

朽木～上中尾…未展翅

- ・スジグロシロチョウ(?エゾ) 1②
- ・サカハチチョウ 1①

上中尾…未展翅

- ・スジグロシロチョウ(?エゾ) 5①～②
- ・サカハチチョウ 1♂①

上中尾を通過してしばらくすると後からきた小型トランプが、ヨタヨタ歩いていた小生を拾ってくれた。

川又～上中尾の採集品はまだ展翅しておらず、スジグロシロチョウについてはエゾスジグロシロチョウが混じっているかもしれない。後日確認の上本誌に発表する。キマダラヒカゲのサト、ヒヤマ、およびスジグロシロ、ヒエゾスジグロシロ、については市川氏に同定を依頼し確実をきしたが、前者の内、7月18日前白岩の1個体と、7月20日将監峠の1♀は種名を確定していない。(たぶんサトキマダラヒカゲであるという)。

お願ひ： 埼玉県教育委員会では本年末には「埼玉県動物誌」を刊行する予定で依頼をすすめていますが、これに掲載する埼玉県の蝶に関する文献を調査中です。残念ながら戦前のもの(正確には1950年以前)がほとんど見つからないので、お気付きの方は是非お教え下さい。
分布上注目すべき蝶や蛾の情報もよろしく。

(市川和夫)

奥秩父の蛾 —— 碓井 徹氏採集の蛾 —

市川 和夫

1965年7月17日から22日までの6日間を、碓井 徹氏は単独で蝶類の調査のために奥秩父（三峰～栗取～笠取～雁坂方面）を踏査したが、その際に若干の蛾を採集し筆者に提供してくれたのでここに報告する。とくに将監峠から雁峠までは蛾の調査報告のごく少い地域であり、氏の好意とその勞に感謝する。標品はすべて筆者が保管している。*は県未記録種。

(1) 1975年7月19日 将監峠 (1800m)

1. *Orthogonia sera* C. et R. FELDER ノコメセダカヨトウ 1♀
2. *Hypena* sp. (? *indicatalis* WALKER トビモンアツバ) 1♀
3. *Bireta pallida* BUTLER ウスキシチャホコ 1♀, 1♂
4. **Asthenia sachalinensis* MATSUMURA カラフトシロナミシタク 1♀
5. *Scionomia sinuosa* WILEMAN コツマキウスグロエダシタク 1♂
6. *Cephalis advenaria* HÜBNER アトボシエダシタク 1♀

(2) 7月20日 唐松尾山 付近 (2109m)

1. *Zanclognatha helva* BUTLER キロアツバ 3♀
2. *Pterodecta felderri* BREMER イカリモング 1♀
3. **Scopula* sp. (? *prouti* DJAKONOV ウラクロスジヒメシタク) 1♀
4. *Eulype hestata hecate* BUTLER サカハチクロナミシタク 1♀
5. *Spilopera debilis* BUTLER ツマトビシロエダシタク 1♀
6. *Bireta pallida* BUTLER ウスキシチャホコ 1♀

(3) 7月21日 雁峠 (1780m)

1. *Spilarctia lutea japonica* ROTSCHILD モンクロアサギヒトリ 1♀
2. *Capnistis albinotata* BUTLER シロモンアツバ 1♂
3. *Bireta pallida* BUTLER ウスキシチャホコ 1♀
4. **Sterrhia* sp. (? *promiscuaria* LEECH ウスジロヒカリヒメシタク) 1♂
5. *Xanthorhoe abraxina* BUTLER キアシシロナミシタク 1♀
6. *Eulype hastata hecate* BUTLER サカハチクロナミシタク 1♀
7. **Asthenia sachalinensis* MATSUMURA カラフトシロナミシタク 1♀
8. *Angerona nigrisparsa* BUTLER ゴマフキエダシタク 1♀
9. *Spilopera debilis* BUTLER ツマトビシロエダシタク 1♀

10. *Perinephela lancealis* D. et SCHIFF. キロメイガ 1♂
 11.* *Epiplema exornata* EVERSMANN シロフタオ 1♂
 (4) 7月21日 古礼山(2,112m)
 1. *Angerona prunaria turbata* PROUT スモエダシカ 1♀, 1♂
 2. *Anagona pulveraria japonica* BUTLER コナフキエダシカ 1♀
 (5) 7月22日 雁道場
 1. *Rhyparioides amurensis* BREMER ホシバニシタヒトリ 1♀

— 比企丘陵でクロヒカゲを発見 —

原 聖樹

クロヒカゲ "Letha diana" は従来国鉄入高線の東側からは確実な記録がなく、山地帯の蝶と思われていた。1975年10月1日、筆者が東松山市岩殿山の北麓を訪れたところ、雑木林と水田の接点で羽化直後と思われる本種1♀を採集することができた。

この記録によって、比企丘陵にもかなりひろく分布しているのではないかと思われ、今後の探索が期待される。他に同日の同地で採集した蝶は次のとおりである。なお、○は新鮮、◎は鮮度中間、●は汚損体である。

- | | |
|------------|--------------------------|
| ・オオチャバチセセリ | 1♀ ○ |
| ・キチョウ | 2♂ ○ (夏~秋中間型), 3♂ ○ (秋型) |
| ・ツマグロキチョウ | 3♂ ○ (秋型) |
| ・ゴイシシジミ | 1♀ ○, 1♂ ● |
| ・ウラナミシジミ | 1♀, 1♂ ○ |
| ・コミスジ | 1♂ ● |
| ・ヒメアカタテハ | 2♀ ○ |
| | ・ベニシジミ 1♀, 2♂ ○ (夏型) |
| | ・ヤマトシジミ 1♂ ○ (秋型) |
| | ・ツバメシジミ 1♀ ○ (夏型) |
| | ・キタテハ 3♀, 2♂ ○ (秋型) |
| | ・ヒメジマメ 1♀, 1♂ ○, 1♂ ○ |

(=220-02 神奈川県津久井郡津久井町中野617 北相塙)

お知らせ： 寄せ蛾記の復刊について、蛾や蝶の先生方多数からはげましのお手紙を頂きました。今までの様に力まずに発行を続けたいと念願しています。先日は井上寛、大野正男両先生からご寄附がありました。早速、会誌印刷用の紙を購入させてもらいましたが、会員一同感謝しております。今後もご指導ください。

コウモリの餌となつた蛾の種類

市川 和夫

灯火に集まつた蛾が、早朝に小鳥達の格好な餌となつて食べられる様を誰もが見知つてゐることと思います。

さて、哺乳類の研究家として高名な鈴木欣司氏（秩父市在住）から、洞穴内に落ちていたという蛾の翅片を多數持ちこまれた。次頁にその一部をあげてみたが、割合と鱗粉が脱落せず斑紋が明瞭なものが多く、浅間山麓のものは100枚中69枚分、秩父のものは全部の種名を判定することができて依頼者に伝えることができた。氏によると、コウモリは生息場所である洞窟内で蛾の胴部だけを食べるので、翅は下に落ちて残るからこの食痕（翅）の種類や量は、食性調査の役に立つという。

洞穴内で食べ残した翅の蛾を、コウモリはいつたいどこから捕えてくるのかが重要な問題であるが、生息地からそれほど遠くのものではないと想像される。それはともかくとして、3箇所の鍾乳洞から採集したといふこれらの蛾の翅片を見ると、洞の所在地によって蛾の種類に差違があるし、コウモリが蛾を食べた時期が割とはつきり推定できるのでおもしろい。加えて、それぞれの鍾乳洞の所在地附近の蛾相を知る上でも多少は参考になると思るので、ここに紹介することにした。資料を提供された鈴木欣司氏に深謝する。

（下記の LF は左前翅、LB は左後翅、RF は右前翅、RB は右後翅を示す）

（1）秩父市上影森の洞窟のコウモリの食痕。
〔推定個体数〕

1. *Orthosia evanida* カバキリガ (— — — 2RF) [2]
2. *O. angustipennis* ホリバキリガ (— — — 1RF) [1]
3. *O. carnipennis* アカバキリガ (3LF — — 2RF) [3]
4. *Perigrapha hönei* スギタニキリガ (— — — 1RF) [1]
5. *Orbona fragariae* イチゴキリガ (1LF — — 2RF) [2]
6. *Xylena formosa* キバラモクメキリガ (7LF — — 7RF) [7]
7. *Arcte coerulea* フクラスズメ (1LF 1LB 1RB 1RF) [1]
8. *Pachyligia dolosa* アトショエダシカ (1LF — — 1RF) [1]
9. ヤガ科の後翅（上記1.～6.のものと違う）(— 7LB 7RB —) —

（2）大滝村大輪の神庭鍾乳洞のコウモリの食痕。

1. *Conistra unimacula* ホシオビキリガ (5LF 5LB 3RB 3RF) [5]
この内 1LF は *f. nigroliturata* で他はすべて *f. albimacula* である。

- (3) 浅間山麓 方圓坊内のカグマコウモリの食痕 [推定個体数] ↓
1. *Aglia tau microtau* エゾヨツメ (3LF, 2LB, 2RB, 2RF) [3]
 2. *Hyloicus caliginosus* クロスズメ (3LF — — — IRF) [3]
 3. *Smerinthus tokyonis* コウチスズメ (1LF — — IRB —) [1]
 4. *Amathes ditrapezium* タンボヤガ (— — — IRF) [1]
 5. *Scoliopteryx libatrix* ハガタキリバ (— — — IRF) [1]
 6. *Xanthia* sp. (キリガ属の1種) (— — — IRF) [1]
 7. *Apamea lateritia* オオアカヨトウ (1LF — — —) [1]
 8. *Apamea striata* スジアカヨトウ (1LF — — —) [1]
 9. *Plusia nigrisigna* タマナキシワバ (1LF — — —) [1]
 10. *Catocala bella* ノコメキシワバ (1LF, 1LB, 1RB, 1RF) [1]
 11. *Mythimna* sp. (ツチビキヨトウ属の1種) (1LF — — —) [1]
 12. ヤガ科の後翅 (— 3LB, 3RB —) —
 13. *Lymantria* sp. (マイマイガ属の1種) (1LF — — —) [1]
 14. *Philodoria potatoria* ヨシカレハ (2LF, 1LB — 3RF) [3]
 15. *Thyatira batis* モントカリバ (1LF — — — 1RF) [1]
 16. *Deileptenia ribeala* マツオオエダシマク (2LF — — 2RF) [2]
 17. *Arichanna gaschkevitchii* ヒヨウモン (1LF, 1LB, 1RB, 1RF) [1]
 18. *Gonodonis aurata* モロエグリズマエダシマク (1LF — — 4RF) [4]
 19. *Angerona prunaria* スモエダシマク (2LF — — — 1RF) [2]
 20. *Proteostenia leda* シロモングロエダシマク (— — — 1RF) [1]
 21. *Spilopera debilis* ツマトビシロエダシマク (— — — 1RF) [1]
 22. *Tristophis subpunctata* ヒメツバメ (1LF 1LB 1RB 1RF) [1]
 23. エダシマク亚科の前翅 (2LF — — — 1RF) [3]
 24. *Phasmas signifera* キマダラコウモリ (1LF — — — 1RF) [1]
 25. *Chalcosia remota* シロシタホタルガ (1LF 1LB 1RB 1RF) [1]
 26. *Glyphodes quadrimaculalis* ヨツボシメイガ (1LF — — 1RB —) [1]
 27. 虫の翅(主として後翅で判定不可能)が他に 31 枚あり、そのほかに、クサカゲロウ属の翅が 8 枚、ガガンボ属の翅が 1 枚あった。

[Fig. 1 大輪 神庭洞のもの(一部)]



[Fig. 2 滅間 方円坊のもの(一部)]



[Fig. 3 秩父郡 上影森の洞内のもの(一部)]

